

そだちサポートプロジェクト
令和7年度 第3回 そだサポ研修&交流会
事後アンケート集計

開催日 令和7年12月19日（金） 18：30～20：20

参加者： 29 名 12 機関（講師、事務局除き、26名 9機関）

・機関（オブザーバー含む） 8 / 9 回答率： 89%

・回答者数（個人） 23 / 26 名 回答率： 88%

1. 事業所やお住まいがある地域はどちらですか？

奄美大島	喜界島	沖永良部島	徳之島	与論島	鹿児島市	鹿児島市外	その他
16	4			1	1	1	

2. 今回の事業所研修&交流会はいかがでしたか？

満足している	まあまあ満足している	満足していない
20	3	

3. 今回の事業所研修&交流会は日々の業務等に役立つと思えましたか？

とてもそう思う	そう思う	全くそう思わない
20	3	

4. 前半の研修はいかがでしたか

テーマ：「支援ニーズの高い子どもへの支援について～情緒面の不安定さを持つ子どもの理解～」

大変満足している	まあまあ満足している	満足していない	不参加	未記入
18	5			

5. 前半の研修について意見や感想を自由に書いてください。

【研修内容について】

・季節の変わり目に顕著に外向性・内向性問題が出てきた子どもたちが複数いたところだったため、とてもタイムリーな学びを得られた。

・外向性の問題の背景には、気づかれにくい内向性の問題があること、日々支援について悩みながらだが、子どもの行動の意味を理解して、いち早く気づきと対応ができるように支援していきたい。

・内向性の反応や問題に目を向けてみることの大切さを学べてよかった。

・外向性の行動に着目しやすいので、心理的反応や本人の葛藤に気づき、早めに対応や支援を行いたい。（変化に気づく）

・外向性の問題を抱えるこのほとんどは、内向性の問題も併せて抱えていることが多いということは、事業所に通う子供にも当てはまると納得することができた。内向性の問題も考える視点を持つことが大切だと勉強になった。

・外向性の問題がある児童は、強度行動障害にもつながりそうなので、小さいうちに大事に支援していきたいと思った。内向性の問題の場合は、周囲に気づかれにくい、心の傷が大きく、深くなる前に丁寧に聞いていきたいと感じた。

・A君の事例を見て、自分も表面的に見えている部分に注目しがちだが、その子がなぜその言葉を言わざるをえないのかその背景に注目することが大切だという話を聞いて、今後の支援に役立てたいと思った。

・特性に引っ張られすぎず、子どものありのままの心の反応（メンタルヘルス）に着目していくことの大切さを学ぶことができた。

・「二次障害」という表現を安易に使っていたが、「そのような定義はない」ということを知ることができたので、「メンタルヘルスに気を付けましょう」などの表現に変えていきたいと思った。

・「うまくいかなくて困っている」という状況について「何に困っていて、何がうまくいかないのか」という視点で内向性の問題に気づけるようにしていきたいと思った。

・目立つ行動を「どうにかしないと」と考えがちだが、その行動の背景を考え、いくつかの仮説を立てて、支援をしていくことが大切だということに改めて気づけた。

・研修を聞きながら、担当の子どもたちや、その子たちに対する自分の対応を思い返していた。「その行動の裏にある原因に目を向ける」「子供たちのSOSに気づいて不安の軽減できるような関りを行う」など意識していきたいと思った。

【時間設定や、時間の長さについて】

・時間の長さはちょうどよいと思う。

【感想・その他】

・感覚で対応してしまいがちなケースに対して、今後論理的に、冷静に対応しやすくなった。スタッフとの連携もしやすくなったと思う。

・子どもの背景を知ることの大切さ、メンタルヘルス面の支援の大切さを学ぶことができた

・担当の子ども想像して話を聞くことができた。

・テーマがとてもよかった。学ぶことができた。

・外向性の問題と内向性の問題についてとても分かりやすい内容だった。

・心を大切にできるよう、視点や気づきを増やしていきたい。

・問題行動ではなく、背景に目を向けることが大切だということがよく分かった。

・早く気づき、適切な対応がすぐできるか、心配である。

6. 後半の交流会はいかがでしたか

大変満足している	まあまあ満足している	満足していない	不参加	未記入
19	4			

7. 後半の交流会について意見や感想を自由に書いてください。

【意見・感想】

・背景をみて行動することを考えていきたい。

・不登校児の対応方法等学べてよかった。(2)

・難しい児童の関りを学ぶことができ、良い時間だった。

・今の支援で考えさせられたことについて、みんなからの意見を聞くことができてよかった。

・2つのテーマに対して、各事業所から様々な意見が出されてよかった。

・いろいろな事業所の方たちの話が聞けて良かった。

・交流会では、他事業所の対応なども聞くことができ、参考になった。

・それぞれの事業所での支援について聞けて、参考になった。

・各事業所の持っている悩みや知識を共有できてありがたかった。

・各事業所が悩みながら日々実践されていることが分かった。支援方法の共有ができるそだサポは貴重な場だと思う。

・手が出てしまう子どもについて質問させていただき、各事業所の方々に対応について伺うことができた。その子がどんな時に手が出るのか、背景を観ることから始めていきたいと思う。行動を止められないときの代替方法も考えながら支援していきたい。

・「ASDの20%がうつを併発していると言われている」などの話を聞いて、自分の中「できることやできていること」などについて興味関心を広げていく関りが大切だと感じた。

・うまくいっている「時、コト、モノ」を増やしていきたいと思う。

・行事前に子どもたちが落ち着きがなくなることは多いが、行事後にも同様の行動がみられることが時々あり、不思議に思っていた。行事とは子どもが目標を持って取り組むためにあるので 「目標がなくなる（終わる）と落ち着かなくなることもある」という話を聞いて腑に落ちた。

・他害行動のある子どもの対応について、他の施設の方の意見を伺うことができた。「そばについて、他害行動が出る前に止める」「他害行動された側のケアはもちろん、した方のケアもしっかり行う（気持ちを代弁するなど）」参考になる意見ばかりだった。

・自閉症の他害行為について、要求がある時に手が出る場合は、代替え行動を考えてあげるといった意見を聞いて、次その場面になった時に取り組んでいきたいと思った。

・ベースが同じで、安心した気持ちや、明日からの支援のエネルギーにもなった。

・もう少し話したいと感じるちょうどよい時間の長さだった。

・先日、研修でお会いした方のお顔も見れてうれしく思った。

8.参加者からの質問事項にお答えください。

①重度の自閉症の子どもの他害行為（つまむ、噛む 等）について対応を知りたい（力加減の教え方等）

【直接支援】

- ・繰り返し、力加減が強いことや嫌なことを伝えていく。（2）
- ・その行為をする前に職員が対応する。
- ・つまむという行為の代替行動を教えていく。
- ・自閉症の子にとって不快な音を出している子の近くに行き、先に手が出ないように止めている。

【環境調整及び活動の工夫】

- ・柔らかい感覚の素材などを持たせてみてはどうか。
- ・力加減を教えるための活動として、平均台、スクイーズ、ピタフワ、深呼吸などを取り入れている。
- ・支援者はすぐ他の子を守る体制をとれるように心がけている。
- ・その行動が起きる前に、できるだけ止めるようにしている。また、その子にはスタッフが一人必ず付くようにしている。
- ・自分の思いを強く伝えたい分、そのような行動がみられると思うので、機嫌よく過ごしている時も、しっかり寄り添い信頼関係を作りたいという思いで日々かかわっている。
- ・他害行為をしている子に寄り添う支援者と、された子に寄り添う支援者を分けている。
- ・行動の背景をスタッフで検討し、うまくいっている様子も共有し、うまくいく環境を整えている。（その行動がでない環境づくりを行っている）

【支援の視点や考え方】

- ・パニックになる原因、背景のパターンを、支援者間や各関係機関と連携し、できるだけ情報を集めている。
- ・どうしてその行動に至るのか、背景についても情報収集して把握している。
- ・「噛む、つまむ」などの行動について「どんな時、場面、だれに対して、本人のコンディション、回数、強さ、時間の長さ、そうでない時の状況」などを観察してみて、対応等の検討を行っている。また、チーム全体で同じ対応をするように話し合っている。

【研修内容との関連】

- ・代替え行動をつくるためにも子どもの実態把握は大切。今日の講義は「内向性問題」にあたると思った。
- ・後半の交流会で、このテーマについて「代替え行動（つまむ、かむ行動の代わりになる好ましい行動）」の話が出た。自分自身も具体的に「代替えとして利用できるどんな行動があるのか」「どのように本人に伝えていけばよいのか」などについても知りたい。